



「イエス！次郎（校長室より）」（第1号）

「× わたりざき じろう」～自己紹介～

小学校1年生の私は、不覚にもある日、名札を忘れてしまった。学校に着いてからそのことに気付いた私は、猛烈に反省したのだが、時すでに遅し。恐怖の忘れ物検査が始まってしまった。ハンカチ、ちり紙（断じてポケットティッシュではない）はバッチリだったのだが、やっぱり私の服には名札が付いていなかった。しかも、なんとその日のクラスの忘れ物は、私の名札だけであった。なんてこった。やらかしてしまった大失敗を悔やんでいる私に対して、担任の先生が下した制裁は、前面黒板に

「× わたりざき じろう」

と書くことであった。大ショック。しかも、それがなかなか消されなかったのだ。もう2度と名札を忘れることはなかったのだが、1日、2日、1週間。もう勘弁してください。心の中で叫んでいた私は、あることに気がついた。もうすぐ授業参観だ。母親の悲しむ顔が頭に浮かんだと同時に、目の前が真っ暗になってしまった。

×印は消されないまま、ある時、担任の先生の代わりに、教頭先生が教室にいらっしゃった。道徳の時間だった。いつものように道徳のテレビ番組を見ることになっていたのだが、あろうことか私の席の真後ろに、教頭先生は座られた。緊張しすぎてテレビの内容など、とても頭に入ってこなかった。

テレビ番組が終わると、教頭先生は教壇に戻られ、いきなり私に向かって、「あなた。」とおっしゃった。チビリそうなくらいドキッとして、「は、はい。」と私は答えた。すると、「あなたのテレビを見ている姿勢は、最高に素晴らしかったですよ。お名前は？」とおっしゃった。思わぬ展開に驚きながらも、「わたりざき じろうです。」と答えると、教頭先生は前面黒板に目をやってから、おもむろに振り返り、「どうして×印がついているのですか？」と尋ねられた。「じろうくんは名札を忘れたんです。」と憎たらしい友達が偉そうに言うと、「ふーん。そうですか。」と言いながら、教頭先生はなんと、なんとなんと、黒板消しで×印を消し、その代わりに大きな花丸印をつけてくださったのだ。

「🌸 わたりざき じろう」

この出来事がなかったら、今の私はないのかも知れない。

ここまでの文章を読んでもみると、心優しい教頭先生に対して、担任の先生があまりにもひどく思えるかもしれないが、決してそうではない。小学1年生の私は、次のように考えた。実は、教頭先生は担任の先生に頼まれて来られたのだと。最初から私の×印を消すために来られたのだと。ただ、花丸印をつけてくださいとまでは、お願いされなかったかもしれないが、本当のことは分からない。でも、そう思えたことが、私の人生に大きく影響したことは間違いない。なにしろ、担任の先生のことを大好きでいられたのだから。

諫早高校・附属中学校に関わる全ての皆さん、こんな私ですが、どうぞよろしくお願いします。